

ミカファンギン術後局所洗浄による 好酸球性真菌性鼻副鼻腔炎の治療（抄録）

岡野光博 服部 央 菅田裕士
山本美紀 西崎和則

岡山大学大学院歯学総合研究科耳鼻咽喉・頭頸部外科

好酸球性真菌性副鼻腔炎（EFRS）は Ponikou らが提唱する新しい概念で、好酸球性ムチン中に真菌を証明する難治性副鼻腔炎である。真菌に対する I 型アレルギーを示すアレルギー性真菌性副鼻腔炎（AFS）もその範疇に含まれる。これらの病因や治療法には未明な点が多い。最近我々はEFRSを4例（うちAFS2例）経験し、術後治療として新規抗真菌薬であるミカファンギンによる副鼻腔洗浄を行った。症例は20～40歳、男性1例、女性3例であった。全例鼻ポリープとともに前部副鼻腔に主病変を認めESSを行った。術後よりミカファンギンによる副鼻腔洗浄を行った。AFSの1例でムチン再燃を認めたが、現在までにいずれの症例もポリープ再発を認めていない。EFRSの病態に真菌が関与することが示唆されると共に、ミカファンギンによる洗浄はその病態形成や薬理作用からも有効な治療である可能性が示唆された。